

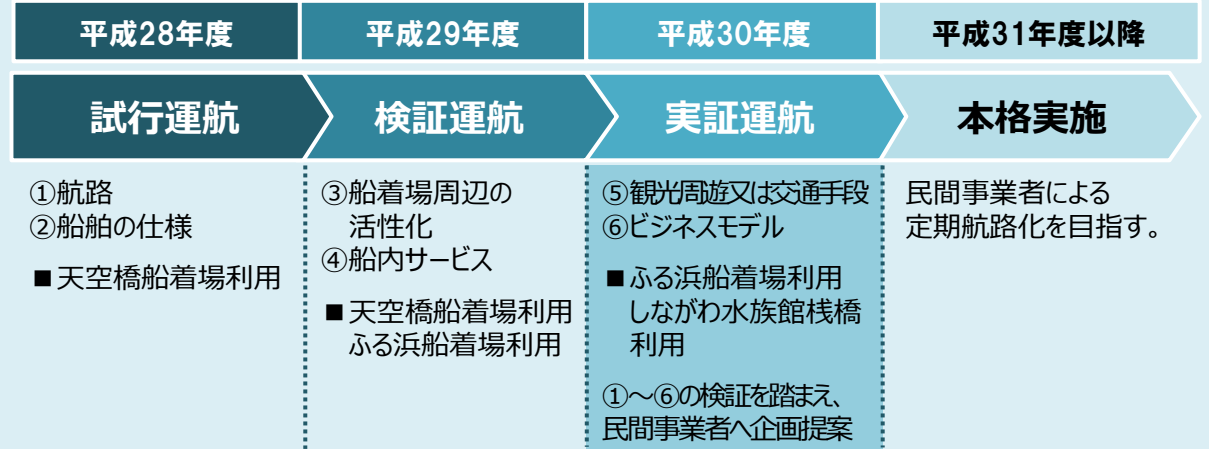
舟運社会実験の成果について

空港臨海部には、羽田空港（空）や豊かな緑・水辺空間（海・運河）など、様々な観光資源が存在する。こうした観光資源を海から眺め、水辺の魅力を体感することを通じて、新たな魅力の発見や気づきを促し、区民や旅行者に大田区の新たな楽しみ方を提案するとともに交通手段として定着することを目的に、平成28年度より3か年にわたり舟運事業を実施した。

舟運の実施に当たっては以下の6つの視点を検証するとともに、平成31年度以降には、民間事業者による地域特性を活かした国際都市にふさわしい舟運の定期航路化を目指し取り組んだ。

舟運の定期航路化に向けた6つの視点

- ① 航路
- ② 船舶の仕様
- ③ 船着場周辺の活性化
- ④ 船内サービス
- ⑤ 観光周遊又は交通手段
- ⑥ ビジネスモデル



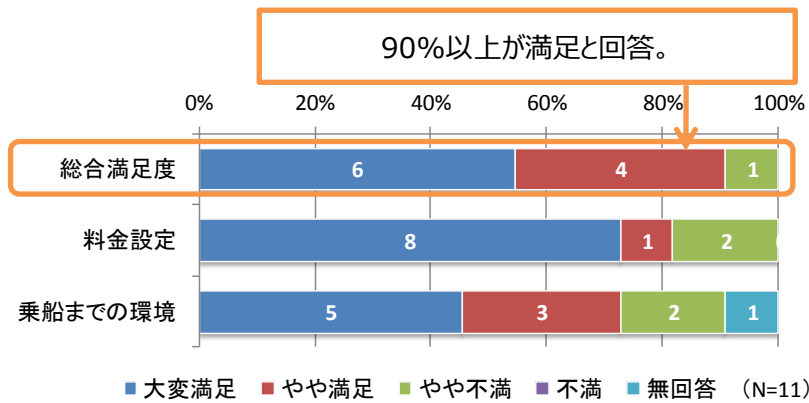
平成30年度舟運（実証運航）実施結果

1. 実施概要

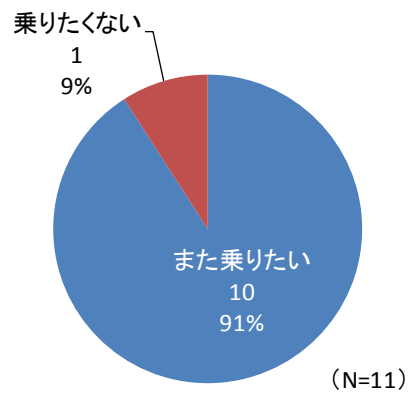
開催日	乗船人数	運航ルート	便数	参加費用
8月26日（日）	26人	大森ふるさとの浜辺公園船着場～しがわ水族館棧橋	往復3便 + 片道1便	大人：1,000円 小学生：500円 ※未就学児無料 ※片道便半額

2. 参加者アンケート結果 参加者数26名（有効回答数11票）

■ 満足度



■ 今後の乗船意向



検証結果

① 航路

羽田空港や豊かな緑、海・運河をめぐる航路は、新たな魅力を創出する等、参加者の満足度も高く、設定航路について高い評価が得られた。

② 船舶の仕様

船室を有しない船舶は、季節や天候等の影響を受け易い。そのため、天候等の急な変化に対応可能な船室を有する船舶が望ましい結果となった。

③ 船着場周辺の活性化

大森ふるさとの浜辺公園でのイベント等や売店との連携により、船着場周辺が賑わうことで、参加者の満足度の向上につながった。また、公園内で船着場の場所がわかりづらい等、船着場そのものの認知度が低かった。

④ 船内サービス

船内から見える海・運河・施設等の景色について、魅力を十分に伝えるために観光ガイドを加えたことで、高い満足度が得られた。

⑤ 観光周遊又は交通手段

羽田空港や上空飛来する飛行機、オリンピック会場等、関心の高いコンテンツを巡る周遊型は高い需要があった。大森ふるさとの浜辺公園と近傍を結ぶ移動型は一定の需要はあったが、長距離航路の一部に取り込むことで、更なる利用者増に繋がる見込みが確認できた。

⑥ ビジネスモデル

事業採算性を踏まえた料金設定では高額となることから、コンテンツの付加価値を高める必要があり、まち歩きやグルメ等の観光との連携に向けた仕組みづくり等が考えられる。